



認定NPO法人 地球の友と歩む会 / LIFE

# 2023年度 年次報告書

Annual Report 2023  
LIFE: Live with Friends  
on the Earth



LIFEの支援で提供された昼食を食べる  
ライバンダック小学校の児童（インドネシア：スンバ島）

2024年も水問題に取り組みます。

事務局長：古賀麻美

スンバ島で給水管を敷設するボランティアをしてから30年経ちますが、今でもスンバ島は水へのアクセスが困難な場所がたくさんあります。

私たちは毎年少しずつ灌漑を整備し、野菜作り支援をしています。数年前事業地の小学校で聞いたのは、子どもたちが空腹で学校へ行くことができないという事実でした。子どもたちが毎日元気に登校できるよう、この3月まで栄養改善に取り組みました。村人が自ら作った野菜を食べ、野菜販売から現金収入を得るという内容です。

最終的に目標はほぼ達成しましたが、新たな課題も見つかりました。手洗いや歯磨きの習慣がないことからの衛生問題です。これも水が足りていないために生じる問題です。今年度はスンバ島の川にポンプを設置します。このポンプはスンバ島内で手に入る材料を使い、村人自身が組み立て修理できる設計になっています。スンバ島の人たちが水を使えるようになるよう応援をよろしくお願いいたします。



■略歴

- 1994年：LIFEのスンバ島勉強会に参加
- 1995年：第6回スンバ島ワークキャンプ参加
- 2012年：職員として入局
- 2023年：事務局長に就任

ビジョン  
ミッション

【ビジョン】  
インドとインドネシアの農村の人々が自然と共生し自立して暮らせる社会を目指します。

【ミッション】  
私たちとビジョンを共有する現地NGOと協力し、「水・緑・人」をテーマに支援します。

支援方針

- 1 水・緑・人で国際協力
- 2 現地の問題は現地に住む人々が解決する
- 3 地球の友としていま私ができることをする



役員  
  
(2024年7月時点)

理事長	横山計三	芝浦工業大学	
理事	米山敏裕	特定非営利活動法人ホープ	
理事	岩田雅子	やまだ株式会社	
理事	上村 真	富士電機株式会社	
理事	鷺見香子	自然電力株式会社	
理事	黒岩竜太	株式会社オルター・トレード・ジャパン	
理事	下山久光	アイ・シー・ネット株式会社	
監事	浜走弘之	社会福祉法人恵和	

## ■沿革

1986年	アジア協会アジア友の会東京事務所として設立
1990年	インドにて井戸建設の支援および現地との交流を開始
1992年	スンバ島にて植林活動および現地との交流を開始
1999年	「地球の友と歩む会」として独立、NPO法人格の取得
2021年	認定NPO法人格の取得
2023年	日本水大賞「国際貢献賞」を受賞（バリ島北部給水支援）

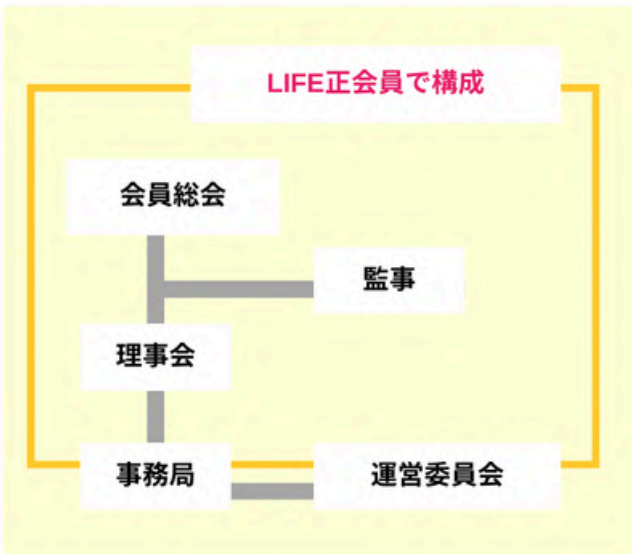
## ■支援実績(2022年時点)

- インドで農業支援をした住民が延べ6,000人に到達
- インドネシア：スンバ島での植林本数が約60万本に到達
- インドネシア：スンバ島での植林面積が680haに到達



スンバ島カルニ村植林前(1992)と20年後の様子

## ■組織体制



### 事務局：職員 (2024年7月時点)

事務局長  
インドネシア 担当  
古賀麻美



国内担当  
佐藤静香



## ■目次

### 02

事務局長挨拶  
ビジョンミッション  
支援方針  
役員

### 03

沿革  
支援実績  
組織体制

### 04

インドネシア事業報告

### 08

インド事業報告

### 09

日本での活動

### 10

会計報告

### スンバ島で協働中の現地NGO



ラジオMAX財団  
代表：ヘンリック氏



マラダ財団  
代表：イプ氏

### インドで協働した現地NGO



シロップ  
代表：チャンドラ氏



レイズ  
共同代表：アヤパン氏 (右)  
共同代表：サシレカ氏 (左)

そのほか現地住民の協力者やボランティアなど様々な方と協働して支援を行っています。



栄養テストに挑戦中のライパンダック小学校の児童たち

### 農村の栄養改善支援

### 農村の子どもに食事の機会を作る



▲ 月に一度の小学校で提供される昼食を食べる児童

#### 現地の声

ライパンダック小学校の5年生  
タムちゃんのお父さんより



食事は朝昼晩の3回食べるよう校長先生から言われました。でもうちは貧しくて朝ごはんを用意することはできません。娘はせいぜい水かお茶を飲んで学校へ行きます。娘には毎朝学校へ行く前に村の共同井戸へ行って水を汲んでくるお手伝いをさせています。重い水を持って疲れて帰ってきて何も食べさせてあげることがないのです。LIFEの支援で庭に植えたパパイヤに今ではたくさん実がなっています。朝ごはんは何も食べるものがなかったらこのパパイヤだけでも食べてみてねとLIFEから言われました。それならできそうです。できれば売ってお金にしたいところですがこれから朝は子どもたちに食べさせてみようと思います。

#### 現地の抱える問題：

スンバ島東部の農村では食事が夕食の1回だけという児童は珍しくありません。朝食は貧しさから用意できずお茶やお水だけで済ませることが多いです。自宅から歩いて水汲みのお手伝いをしてから登校する子は元気がなかったり学校へ行くことがイヤになる子もいます。現金を得る機会がほとんどないため自給自足の生活をしている家庭が多いです。

#### LIFEの支援：

2021年からライパンダック小学校をモデル校とし他地域への栄養改善の普及を目指しています。児童には昼食の提供、農業や栄養の教育を行いました。保護者には貧困から抜出すために栽培できる野菜を増やす農業研修を実施しました。収穫した野菜は学校の昼食用にも提供しました。

#### 今後の支援：

小学校での栄養改善はほぼ目標を達成するという良い成果を収めることができました。今度は各家庭での食事や健康管理に必要な水を確保する支援へ移行したいと考えています。この支援は主に味の素ファンデーション様の助成で実施しました。

#### 2023年度：活動結果

- 住民の現金収入が月2,000円から4,000円に増加しました
- 日本人小児科医が村を訪問し児童の健康状態を確認しました
- 児童に農業や栄養のテストを実施し正解率は90～100%でした
- 農業研修を実施した住民が野菜を栽培し収穫して販売するまでを確認しました
- 村長を中心に村人たちが自主的に野菜作りや魚の養殖を広める活動を確認しました

## 家畜のフンを有効活用したキッチンを作りました



家畜のフンを使ったガス発生装置を小学校に設置しました。家畜のフン1日分で翌日分の火を起こすことが出来ます。その後、住民が自主的に村にも1台設置しました。

## 栄養改善支援： 3年間の歩み

LIFEの支援を受けてフンが肥料やガスに変わることを知りました。今までフンは村のあちこちに落ちていて悪臭が酷かったんです。いまでは悪臭に悩まなくなりました。また薪を燃やさないで煙でせき込むこともなくなり助かっています。

ライパンダック村の住民より

## 昼食用の野菜栽培&農業で生活ができる機会を作りました



小学校に農園を作り児童と保護者に農業研修を実施して野菜を収穫しました。採れた野菜を使って昼食の材料にしたり、売って鶏肉などの材料を買ったりしています。保護者以外の住民にも農業研修を実施し、村全体で収入を得られるように支援をしました。

町から遠く離れたライパンダック村には何も産業がなく大人になっても仕事に就けないのです。LIFEの支援ではライパンダック小学校の児童にも野菜作りを学ぶ機会が用意されていました。これでこの子たちが大人になったときに野菜作り農家として生きていけるかと思うと校長としてとても応援しています。



ライパンダック小学校  
カイタ校長より

## 栄養教育の実施や児童の健康状態を確認しました



「空腹が満たされれば、それでいいと思ってた」「栄養ってなに？」といった保護者の認識を変えるため日本の管理栄養士&小児科医と連携して教材を作り、児童と保護者に栄養教育を行いました。また便の状態から児童の健康状態を把握する方法などを学校の先生や保護者に研修を行いました。

うちの息子は好き嫌いがなく私が作ったものは何でも食べるのにすくすく痩せています。日本から来たお医者さんにうちがゆるいとせつかく食べても栄養が出ていってしまうという話を聞きました。そのお医者さんからうちの子が虫歯がいっぱいあることも聞きました。虫歯がひどくなると歯が痛くて食べられなくなってしまうこともあるそうです。そうならないように歯磨きをして虫歯にならないようにしなければと思いました。それから紙芝居で栄養のことを知りました。前は夫が海で釣ってきた魚はお金にするために売っていたけど今はタンパク質をとるために週に2,3回は食卓に出すようにしています。

カリムくんのお母さんより



## 住民の自主的な動き



「タンパク質が足りない」ということで村の予算で魚の養殖場を12個作りました。協働した現地NGOから養殖方法を学び魚の餌も住民が作っています。小学校の昼食に魚を提供したりするなど魚の数は順調に増えています。

また農業研修や養殖方法を学べなかった住民にも教えあっており、村全体で収入を上げる努力をしています。

私たちライパンダック村の住人はLIFEの支援で農業研修、果樹の栽培、バイオガス発生装置の建設などを通して知識・技能として身につけることが出来ました。私はこの支援で得た学びを他の村の住民にも伝えていきます。こんな意味のある活動ができたのも日本からの資金援助があったからです。私たち村人は自ら考え、工夫し、実践して村の生活を向上させることができると気がかされました。

ライパンダック村のゲラルド村長より





▲ 植林に参加したワインガブ第三高校の生徒と先生

現地の声

植林に参加した  
ワインガブ第三高校の生徒より



生活に必要なという理由で木を際限なく切つてはいけないと思っています。環境保全や生態系の保護に繋がれば良いと考えながら植林しました。植林後は月に一回ほどある課外授業の一環で、植林した海岸のゴミ拾いを行い、マングローブの苗木の生育状況を観察しています。第二外国語で日本語を選択しているので日本人と交流する機会を持ってとても嬉しかったです。私たちの活動を通してスンバ島で自然を大切にしようとする人が増えるといいなと思っています。

【LIFE公式YouTube】植林の様子を動画でまとめました ▶



現地の抱える問題：

昔は香木の白檀を売っていた歴史もあるほど緑があったスンバ島ですが現在は荒地が広がっています。理由としては家畜の放牧、野焼きから発生する山火事、建材や調理等の生活のために必要な伐採など様々なケースがあります。乾燥地域のため2〜3ヶ月しか雨が降らないことも木が育ちにくい要因とされています。

LIFEの支援：

地元の高校生と日本人ボランティアと一緒に植林をしました。また植林したマングローブが家畜に食べられないように現地NGOや地元住民が1本ずつネットでカバーをかけるなどしてお世話をしています。高校生たちは木を大切にすることなど環境保全への意識が高くなり住民の意識が変化していることを確認出来ました。

今後の支援：

現在活動中の沿岸は2015年度から植林を実施してきました。植林したマングローブの生育状況の調査をしているため、2024年度は新たな植林は実施しない予定です。

2023年度：活動結果

- 過去に植林した木から種を摘み取り苗木を育てました
- 0.68haの海岸に1000本のマングローブの苗木を植林しました



▲ 苗木にカバーをかける現地の方法

農家の収入向上支援

手馴れたトウモロコシの栽培から収入を得るために



▲ 研修を受講して飼料用トウモロコシを収穫できた農家

現地の声

農業研修に参加したクタ村の  
女性より



最初は「トウモロコシなんて本当に売れるの？」と思っていましたがこの支援は販売までをサポートしてくれるので安心してチャレンジ出来ました。LIFEの支援で家の周りにはある種や家畜のフンから防虫剤や肥料の作り方を学びました。その結果、元気に育って大豊作でした。そんな方法があるなんて知りませんでした。

東スンバ島の農業局長が収穫の様子を見に来てくれて、大豊作だったことにとても喜んでいました。

現地の抱える問題：

スンバ島の農家はトウモロコシのみを伝統的に栽培しており他の作物の栽培に挑戦することは「自分たちにはムリだ」と思い込んでいる人が多いです。そのためLIFEでは白菜、トマト、チンゲン菜、小松菜、ほうれん草、きゅうり、パパイヤ、バナナなどを栽培して収入を得る支援を継続的に行っていました。

LIFEの支援：

近年インドネシア政府は飼料用トウモロコシを輸入から国内生産に移行するため栽培を奨励しています。しかしスンバ島では「トウモロコシは売れない」と思っている方が多いです。そのため売れる作物であると知ってもらうため協力農家を募り農業研修と販売をサポートすることで、飼料用トウモロコシ栽培で収入を得られるという成功モデルを作りました。

今後の支援：

今後は現地NGOがこの取り組みを継続し他の農家さんへと普及する予定です。この支援は主に日本労働組合総連合会様の「連合・愛のカンパ」の助成で実施しました。2024年度は現金収入の機会を増やすためキノコやライム栽培に挑戦する農家を支援予定です。

2023年度：活動結果

- 研修に参加した30名の農業グループはこの支援で約12万円の収入を得ました
- 今年は45名の農家に農業研修を実施し2024年1月に植え付けました



▲ 2024年3月に撮影  
順調に育っています



▲熱心に絵本を読む東スンバ島のとある小学校の児童たち

現地の声

訪問したタブンドゥン小学校の先生より



絵本の時間になると子どもたちは大喜びです。一年生はまだまったく文字が読めませんが、高学年のお兄さんお姉さんが読むのを見て文字に興味を示しています。また絵があることがいいですね。もし文章の意味がよくわからなくても、子どもたちは絵から文章の意味を想像できます。素敵な絵本をたくさん贈ってくださいありがとうございます。

[LIFE公式YouTube] 学校の様子を動画でまとめました ▶



現地の抱える問題：

インドネシアでは民族や地域によって独自の言語を話して生活しています。スンバ島でも複数の言語が存在し公用語であるインドネシア語は他の地域や民族の人とコミュニケーションをとる際や公の場所で使用されています。スンバ島の農村部の子どもたちは小学校に入学して初めてインドネシア語に触れるため小学4年生になってやっと教科書を読めるようになる子もいます。

LIFEの支援：

日本の絵本にインドネシア語訳を貼って寄贈する取り組みを2018年度から2022年度にかけて実施し、約1000冊の絵本を東スンバ島農村部の約120の小学校に寄贈しました。各学校へ配布されているか、活用されているか等の追跡調査をし、訪問したタブンドゥン小学校では絵本が届き活用されている様子を確認出来ました。

今後の支援：

県庁所在地のワインガブでは図書館ができたり、オーストラリア政府の支援で図書が寄贈が進むなど現地では変化も起きています。この活動は永岡書店様の協力、日本でのボランティア参加を含めた皆様のご支援とご協力で行いました。

2023年度：活動結果

- 発送した絵本の到着を確認しました
- 県の教育局等の関係者と状況確認をしました
- 小学校で聞き取り調査や配布状況を確認しました

農村部の給水支援

水にアクセスしやすくするために



▲現地NGO：ラジオMAX財団内で組み立て作業の様子

現地の声

現地NGO：ラジオMAX財団代表ヘンリック氏より



燃料や電気を使わないポンプを作ると日本の皆さんが言っていたけど本当に作ったと聞いて驚きました。送ってもらった図面や動画を見てスンバ島で活動する他の現地NGO：マラダ財団と一緒に試行錯誤して作ってみました。しばらく雨季で川の水が増水していたので設置を待っていましたが、やっと水かさが減ったのでポンプを川に設置しました。水は順調に汲み上がりましたが、一部不具合が見られるので日本の皆さんと協力して改善していきたいです。

現地の抱える問題：

インドネシアというと熱帯雨林を想像する方が多いかもしれませんが。しかしスンバ島東部は乾期が約10ヶ月ほど続く乾燥地帯です。井戸がない地域では片道2時間かけて水を汲む光景は珍しくありません。

LIFEの支援：

水へのアクセスが困難な人のためにLIFEでは2019年頃からポンプ開発を行っています。目指しているのは、化石燃料を使わずに自然エネルギーで動き、スンバ島の人々が作成からメンテナンスまでを行い、現地で部品調達しやすいポンプです。日本で作った試作機を元に現地で実際に組み立てました。

今後の支援：

2024年7月にスンバ島の川に設置しポンプの破損状況などを調査中です。また2024年9月にはスンバ島の若者と日本の大学生がポンプと一緒に組み立てたり実験をする予定です。この支援は二幸建設(株)を始めとする皆様のご寄付、多くのボランティアの協力によって実施しました。

2023年度：活動結果

- 日本側で組み立てや実験の様子を動画にし現地NGOに渡しました
- 設計図などを日本の大学生ボランティアがまとめました
- 日本側の資料を元に現地NGOが組み立てて実験する準備が出来ました



スンバ島で完成したポンプ▲

# インド事業報告

## インド共和国 タミルナドゥ州での活動



教育費ローン支援を受けた村の方々

### 農家の収入向上支援

### 安心して農業に取り組むために

※この支援は終了し現地NGOの自主的な取り組みの報告です

#### 現地の声

現地NGO：レイス (REYDS)  
共同代表サシレカさんより



2023年度に農家が生産した野菜や加工品を売る販売所を新しく軒開店しました。農家からは定期的に野菜が届きますし今では固定客も出来て安定してお店の運営が出来ています。  
私たちは保健衛生の支援にも取り組んでおり、2つの病院と10の小学校にトイレの建設を予定しています。日本の皆様とは今後とも縁が続くことを願っています。



▲ LIFEの支援を受けた農家の方

### 教育ローン運営支援

### 村の子どもたちに、高等教育への進学機会を！

※この支援は終了し過去に支援を受けた方や現地NGOの自主的な取り組みの報告です

#### 現地の声

LIFEの支援を受けたナガンマルさん



高等教育を受けさせたいけどお金がなく困っていた近所の女性たちと教育ローンを共同で運営するグループを作りました。教育費を貸し出し、借りたメンバーには乳牛を飼育してもらい、牛乳を売ったお金で返済を続けてもらいました。順調に返済が進んで元手も増えて今では教育の他に医療費、農業用の資金などにも貸し出しています。教育ローンのおかげで子どもは高等教育を受けられましたし、私たちは酪農で収入を得ています。現地NGOやLIFEの助けがなくても酪農のおかげで自立した生活を送れています。

2012年6月～2022年12月にかけて実施した支援の詳細はこちらの活動報告書をご覧ください ▶



▲ 教育費ローン支援を受けた村の方々

#### 現地の声

シロップ代表：チャンドラさん



ナガンマルさんの村では農業の収入が少なく、サリとして村を出て働きに行くのも難しく私たちに相談が入りました。ローンを運営するための金融知識のトレーニングやグループで運営管理していく方法を研修しました。LIFEの支援で運用するローンの元手を提供してくれたことで子どもたちの進学だけでなく保護者の貧困も救うことが出来ました。とても感謝しています。

この支援を協働した現地NGO：シロップ (CIRHEP) は公式HPで現在の活動等を公開中です。ぜひご覧ください。▶





## 日本での活動

ご寄付・ボランティアに参加してLIFEを応援して下さいましたこと、心より御礼申し上げます。

中高年事業団

やまて企業組合

チャレンジま

チャレンジとしま

資金化ボランティアに参加した団体様に訪問して作業した切手のシートを受け取った職員

## キャンペーン募金 集計結果

※リサイクル寄付を含む

### ひまわり募金 (7~9月末)

参加：74組

合計：135万6,221円

### クリスマス・春の助け合い募金 (7~9月末)

参加：170組

合計：161万7,359円

### 参加者の声

リサイクル寄付参加者：  
匿名の方より



亡き父は切手をたくさん集めていました。実家の片付けが進まない中、LIFEさんの活動を知りました。「切手ならなんでもOK」と聞いたので段ボールにまとめて寄付しました。(女性の方より)

最初は買取会社をお願いしようと思いましたが「海外の切手は査定できない」「戦後の切手は額面以上の価値はつきにくい」といった返事だったのでそれならLIFEさんに寄付しようかなと思ったんです。海外旅行で余った小銭や紙幣もあるので寄付したいと思います。(男性の方より)

## インターン受け入れ 長期インターン 1名

2023年度は主にLIFEの公式YouTubeの動画作成や活動紹介リーフレットのデザイン案などに協力して下さいました。

### 参加者の声

廣瀬夏美さん



『学校と家以外で場所を作ろう。』そう考えてLIFEでの活動を決めたのは7年前、2017年の夏です。当時高校1年生だった私は自分の置かれていた状況に焦りを感じていました。「同世代に比べて自分は劣っているのではないか」…そんな漠然とした悩みを抱えていたのを覚えています。その中で出した答えがボランティア活動でした。(中略) 高校1年生の頃、漠然と抱いていた悩みは未だ消えずとも「自分のやれる事をやろう!。」という心の指針をこの7年で構築できました。

高校3年間と大学4年間 計7年間をLIFEと駆け抜けた廣瀬さんの活動修了報告はこちらから全文をお読み頂けます ▶



2024年度のインターンは4名の応募があり活動中です。

## リサイクル寄付 換金結果



切手・ハガキ・金券	1,016,710円
国内外の古銭・紙幣	37,700円
海外の切手・その他	1,651円
使用済の切手	約26kg 27,200円
きしゃぼん募金	475点 21,871円

参加：約100組

合計：110万5,132円

ハガキ、切手、使用済みの切手、海外のコインや紙幣、日本の古銭、金券などを集めています。詳細はこちら ▶



## ボランティアのご協力



- 給水ポンプ支援ボランティア 12名
- 寄付品の資金化ボランティア 28組
- 事務局&イベントボランティア 23組
- TVAC主催：夏の体験ボランティア参加者 35組

### 参加者の声

ボランティアに初めて参加しましたが、切手を貼り付けたり整理しておしゃべりしながら作業できました。スンパ島の助けになれば嬉しいです。(資金化ボランティア参加・高校生)

オンラインイベントに参加していたので気になっていました。活動内容を実際にきくことが出来て楽しかったです。(イベントボランティア・社会人)

この他にもたくさんのボランティアさんの協力で活動を進めることが出来ました。

## 会計報告

皆様のご支援で活動することが出来ました。

心より感謝を申し上げます。

2023年6月：  
上尾市立上尾中学校の校外学習の受け入れ



◀ 詳細な決算報告はこちらをご覧ください。

## 貸借対照表

2024年 3月 31日現在

(単位:円)

科目	金額	
<b>I 資産の部</b>		
1. 流動資産		
現金預金	2,280,214	
貯蔵品	512,721	
未収入金	627,313	
流動資産合計		3,420,248
2. 固定資産		
敷金	202,000	
固定資産合計		202,000
資産合計		3,622,248
<b>II 負債の部</b>		
1. 流動負債		
未払金	103,307	
預り金	93,188	
流動負債合計		196,495
負債合計		196,495
<b>III 正味財産の部</b>		
前期繰越正味財産		4,728,104
当期正味財産増減額		△ 1,302,351
正味財産合計		3,425,753
負債及び正味財産合計		3,622,248

## 会費/種類

●正会員(個人)  
年額1口：12,000円

▼ 詳細はこちら



●正会員(団体)  
年額1口20,000円

※正会員費は寄付金控除の対象外です

●賛助会員(個人・団体)  
年額1口：6,000円

※賛助会費は寄付金扱いとなります

## 寄付の方法

当会へのご寄付は、  
寄付金控除等の税制優遇の対象です。

● クレジットカード決済  
【VISA/master card/JCB/American express/Diners Club】  
※PayPal/ソフトバンクポイントからも寄付OK



スマホ  
パソコンから  
約5分で完了

● 直接振り込む場合  
ゆうちょ銀行 019支店  
当座預金 0400590

【ゆうちょ記号番号】  
00180-9-400590  
特定非営利活動法人地球の友と歩む会



こちらから  
決済できます



# 活動計算書

2023年 4月 1日 ~ 2024年 3月 31日 まで

(単位:円)

科目	金額	
<b>I 経常収益</b>		
1. 受取会費		
正会員受取会費	264,000	
賛助会員受取会費	198,000	462,000
2. 受取寄付金等		
受取寄付金	3,280,156	
受取民間助成金	5,667,313	8,947,469
3. 事業収益		
海外協力事業収益	972,969	
海外交流事業収益	393,000	
国際理解促進事業収益	57,550	1,423,519
4. その他収益		
為替差益	3,150	
雑収益	13,827	
受取利息	15	16,992
経常収益計		10,849,980
<b>II 経常費用</b>		
1. 事業費		
(1) 人件費		
給料手当	3,167,640	
通勤交通費	86,670	
福利厚生費	16,920	
法定福利費	320,681	
人件費計	3,591,911	
(2) その他経費		
海外プロジェクト費	3,367,255	
払込手数料	294,609	
広報宣伝費	275,082	
会議費	23,645	
通信運搬費	134,691	
光熱費	80,115	
家賃費用	600,415	
消耗品費	353,140	
旅費交通費	2,500,388	
諸会費	30,000	
保険料	14,492	
研修費	10,000	
会場費	3,000	
仕入費	10,150	
交際費	12,629	
支払報酬	261,280	
その他経費計	7,970,890	
事業費計		11,562,801
2. 管理費		
(1) 人件費		
給料手当	351,960	
通勤交通費	9,630	
福利厚生費	1,880	
法定福利費	35,631	
人件費計	399,101	
(2) その他経費		
払込手数料	28,687	
広報宣伝費	28,810	
通信運搬費	21,502	
光熱費	8,902	
家賃費用	66,713	
消耗品費	25,305	
旅費交通費	980	
保険料	1,610	
支払報酬	7,920	
その他経費計	190,429	
管理費計		589,530
経常費用計		12,152,331
当期正味財産増減額		△ 1,302,351
前期繰越正味財産額		4,728,104
次期繰越正味財産額		3,425,753

(順不同・敬称略)

## 助成金 ご協力

日本労働組合総連合会：連合・愛のキャンパ

味の素ファンデーション：AINプログラム

日中友好会館：日中植林・植樹国際連帯事業

千代田区社会福祉協議会：  
ボランティアグループ広報活動支援助成金

## ボランティアツアー開催報告



2023年10月に開催し3名が参加しました。  
植林の他に第二次世界大戦中の旧日本軍の遺構を見学したり、自然観察などを行いました。

## 日本水大賞 受賞報告



2022年度に終了したバリ島給水事業について  
日本水大賞：国際貢献賞を受賞し、この活動に  
取り組んだボランティアメンバーが登壇して  
活動発表を行いました。

活動発表の動画&活動集のリンクはこちら▶



皆様のご支援で2023年度も支援活動を  
進めることができました。

心より御礼を申し上げます。

事務局・役員一同

# LIFEの支援に関する主なSDGs



LIFEが解決したい目標



その他の目標



問題解決のために大切にしたい目標

団体名 特定非営利活動法人 地球の友と歩む会  
 英語名 LIFE: Live with Friends on the Earth  
 所在地 〒102-0071 東京都千代田区富士見2-2-2 東京三和ビル503  
 最寄駅 飯田橋駅 (各線より徒歩5分)  
 TEL 03-3261-7855  
 FAX 03-3261-9053  
 e-mail life@earth-ngo.jp  
 URL https://www.earth-ngo.jp/  
 法人番号 5010005004874  
 設立年月日 1999年10月13日  
 認定期間 2021年12月13日から 2026年12月12日まで

## ■協賛

申込ページ

リサイクル募金  
**きしゃぽん**



本・DVD・ブランド品・貴金属などの査定額がLIFEへ寄付されます。更に査定が付けば運営会社より1件当たり100円の寄付が入ります。

## ■協力団体

**PR TIMES**



LIFEではこれらの団体が行う非営利団体プログラムを利用しています。

いいね！してIFEの活動を応援！



@lifetokyo



@life\_insta\_official



@life.ngo



地球の友と歩む会ちゃんねる

「現地の問題は現地の人々が解決する」  
**インドネシア:スンバ島支援の現場**  
 2024/01/19(金) 19:30~21:00  
 参加無料  
 オンライン開催

パネリスト  
 LIFE事務局長: インドネシア担当 古賀麻美  
 LIFE理事: インドネシアへ語学留学中 岩田雅子  
 LIFE職員: 国内・経理担当 佐藤静香

## ▲ 2023年度に実施したオンラインイベント



https://life-ngo.peatix.com/

ボランティアや  
 イベントの告知は  
 こちら ▶

